

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査【概要・分析】

1 生活機能評価

国の設定する調査項目として、介護予防のための基本チェックリストの設問があり、他市町村との比較が可能です。ここでは、現時点で結果が公表されている札幌市との比較を掲載します。

(1) 運動器

国の手引き※によれば、調査票の以下の設問を抽出し、5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器のリスク該当者と判定します。（※「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き〔令和元年10月23日〕による）

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
問2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
問2(3)	15分位続けて歩いていますか。	3. できない
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
問2(5)	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である



	旭川市	札幌市
リスク該当者の割合(%)	9.6	10.3

※札幌市は旭川市と異なり、要介護認定の有無にかかわらず無作為調査を行っているため、公表されている結果は旭川市よりも要介護認定を受けた方が多いものとなっています。そのため、両市とも要介護認定なしの方のみの結果で比較しています。（以下、同じ）

要介護認定なしの高齢者における運動器のリスク該当者の割合は、両市とも大きな違いはありません。

(2) 閉じこもり

国の手引きによれば、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定します。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2(6)	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回



	旭川市	札幌市
リスク該当者の割合(%)	19.7	16.3

要介護認定なしの高齢者における閉じこもりのリスク該当者の割合は、旭川市のほうがわずかに高くなっていますが、必ずしも大きな違いではありません。

(3) 転倒

国の手引きによれば、調査票の以下の設問を抽出し、該当する人を転倒のリスク該当者と判定します。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問2(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある



	旭川市	札幌市
リスク該当者の割合(%)	40.0	33.6

要介護認定なしの高齢者における転倒のリスク該当者の割合は、旭川市のほうが高くなっています。冬季の寒さが旭川市のほうが厳しく、凍結による転倒リスクの違いが一因として考えられます。

(4) 栄養

国の手引きによれば、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のすべてに該当する人を栄養のリスク該当者と判定します。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問3(1)	身長・体重をご記入ください。	BMI18.5未満
問3(7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい



	旭川市	札幌市
リスク該当者の割合(%)	1.1	7.1

要介護認定なしの高齢者における栄養のリスク該当者の割合は、旭川市のほうが低くなっています。

(5) 口腔

国の手引きによれば、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔のリスク該当者と判定します。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
問3(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
問3(4)	口の渇きが気になりますか。	1. はい



	旭川市	札幌市
リスク該当者の割合(%)	24.4	28.1

要介護認定なしの高齢者における口腔のリスク該当者の割合は、旭川市のほうが低くなっていますが、必ずしも大きな違いではありません。

(6) 認知

国の手引きによれば、調査票の以下の設問を抽出し、3項目のうち1項目以上に該当する人を認知のリスク該当者と判定します。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4(1)	物忘れが多いと感じますか。	1. はい
問4(2)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。	2. いいえ
問4(3)	今日が何月何日かわからない時がありますか。	1. はい



	旭川市	札幌市
リスク該当者の割合(%)	53.5	41.8

要介護認定なしの高齢者における認知のリスク該当者の割合は、旭川市のほうが高くなっています。

(7) うつ

国の手引きによれば、調査票の以下の設問を抽出し、2項目のうち1項目以上に該当する人をうつ病のリスク該当者と判定します。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問7(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問7(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい



	旭川市	札幌市
リスク該当者の割合(%)	41.4	38.8

要介護認定なしの高齢者におけるうつ病のリスク該当者の割合は、旭川市のほうが高くなっていますが、必ずしも大きな違いではありません。

(8) 手段的自立度(IADL)

高齢者の比較的高次の生活機能を評価することができる老研式活動能力指標には、高齢者の手段的自立度(IADL)に関する設問が5問あり、「手段的自立度(IADL)」として尺度化されています。調査票の以下の設問を抽出し、1つでも該当しない場合に手段的自立度の低下者と判定します。

【判定設問】

問番号	設問	該当する選択肢
問4(4)	バス等を使って1人で外出していますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4(5)	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4(6)	自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4(7)	自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない
問4(8)	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している 2. できるけどしていない



	旭川市	札幌市
リスク該当者の割合(%)	7.4	2.7

要介護認定なしの高齢者における手段的自立度の低下者の割合は、旭川市のほうが高くなっていますが、必ずしも大きな違いではありません。

2 地域活動

週1回以上参加している方の割合が最も高いのは「収入のある仕事」(17.0%)で、次いで「スポーツ関係のグループやクラブ」の割合(16.8%)が高くなっています。また、どの活動にも週1回未満しか参加していない方の割合は40.3%(無回答の方を含むと56.9%)となっています。

また、ここでは男女別の参加状況を比較します。

n=2,762 単位(%)

	ボランティアのグループ	スポーツ関係のグループやクラブ	趣味関係のグループ	学習・教養サークル	「筋肉ちよきんクラブ」認知症予防教室」など、介護予防のための通いの場	老人クラブ	町内会・自治会	収入のある仕事	左記のいずれかの活動の参加頻度
週4回以上	0.4	3.8	2.4	0.3	0.9	0.5	0.5	11.2	17.8
週2～3回	1.7	7.3	5.4	1.0	1.5	1.0	0.9	4.9	15.6
週1回	1.1	5.6	6.6	1.5	2.2	1.7	1.1	1.0	9.7
月1～3回	3.0	3.9	8.0	3.4	1.4	1.7	4.8	1.5	9.4
年に数回	4.0	2.5	4.2	2.2	1.2	2.1	21.8	2.4	10.8
参加していない	50.4	43.5	40.4	51.3	54.3	55.2	36.8	43.5	20.1
無回答	39.3	33.3	32.9	40.3	38.6	37.7	34.1	35.6	16.6
週1回以上	3.3	16.8	14.4	2.8	4.6	3.3	2.5	17.0	43.1

【男女別】

参加状況を男女で比較すると、ボランティアや町内会・自治会、収入のある仕事は男性の参加割合が高く、趣味関係や学習・教養サークル、介護予防、老人クラブは女性の参加割合が高くなっています。スポーツ関係については、週1回以上の参加でみると女性の参加割合が高く、月1回以上の参加でみると、男性の参加割合が高くなっており、女性の参加者のほうがより頻度の高い方が多い傾向がみられます。

・ボランティアのグループ

性別	人数(人)	割合(%)						
		週4回以上	週2～3回	週1回	月1～3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,762	0.4	1.7	1.1	3.0	4.0	50.4	39.3
男性	1,229	0.6	1.8	1.3	3.0	5.7	54.4	33.2
女性	1,533	0.3	1.6	1.0	3.0	2.6	47.2	44.2

週1回以上の参加割合 ⇒ 全体：3.3% 男性：3.7% 女性：2.9%

月1回以上の参加割合 ⇒ 全体：6.3% 男性：6.7% 女性：5.9%

・スポーツ関係のグループやクラブ

性別	人数(人)	割合(%)						
		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,762	3.8	7.3	5.6	3.9	2.5	43.5	33.3
男性	1,229	3.3	7.4	5.3	5.9	4.5	46.9	26.8
女性	1,533	4.3	7.3	5.8	2.3	1.0	40.7	38.6

週1回以上の参加割合 ⇒ 全体：16.8% 男性：15.9% 女性：17.4%

月1回以上の参加割合 ⇒ 全体：20.7% 男性：21.8% 女性：19.8%

・趣味関係のグループ

性別	人数(人)	割合(%)						
		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,762	2.4	5.4	6.6	8.0	4.2	40.4	32.9
男性	1,229	2.0	5.1	4.9	7.3	6.6	45.2	29.0
女性	1,533	2.8	5.6	8.0	8.5	2.3	36.7	36.1

週1回以上の参加割合 ⇒ 全体：14.4% 男性：12.0% 女性：16.4%

月1回以上の参加割合 ⇒ 全体：22.4% 男性：19.3% 女性：24.9%

・学習・教養サークル

性別	人数(人)	割合(%)						
		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,762	0.3	1.0	1.5	3.4	2.2	51.3	40.3
男性	1,229	0.3	0.5	0.8	1.7	3.0	58.7	35.0
女性	1,533	0.3	1.4	2.0	4.8	1.6	45.3	44.6

週1回以上の参加割合 ⇒ 全体：2.8% 男性：1.6% 女性：3.7%

月1回以上の参加割合 ⇒ 全体：6.2% 男性：3.3% 女性：8.5%

・「筋肉ちよきんクラブ」「認知症予防教室」など、介護予防のための通いの場

性別	人数(人)	割合(%)						
		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,762	0.3	1.0	1.5	3.4	2.2	51.3	40.3
男性	1,229	0.3	0.5	0.8	1.7	3.0	58.7	35.0
女性	1,533	0.3	1.4	2.0	4.8	1.6	45.3	44.6

週1回以上の参加割合 ⇒ 全体：4.6% 男性：2.1% 女性：6.5%

月1回以上の参加割合 ⇒ 全体：6.0% 男性：2.8% 女性：8.5%

・老人クラブ

性別	人数(人)	割合(%)						
		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,762	0.5	1.0	1.7	1.7	2.1	55.2	37.7
男性	1,229	0.4	1.2	1.4	1.3	2.5	60.9	32.2
女性	1,533	0.6	0.8	2.0	2.1	1.8	50.6	42.1

週1回以上の参加割合 ⇒ 全体：3.3% 男性：3.0% 女性：3.5%

月1回以上の参加割合 ⇒ 全体：5.0% 男性：4.3% 女性：5.5%

・町内会・自治会

性別	人数(人)	割合(%)						
		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,762	0.5	0.9	1.1	4.8	21.8	36.8	34.1
男性	1,229	0.7	1.5	1.4	7.2	28.5	35.2	25.6
女性	1,533	0.3	0.4	0.9	2.9	16.4	38.2	40.9

週1回以上の参加割合 ⇒ 全体：2.5% 男性：3.6% 女性：1.6%

月1回以上の参加割合 ⇒ 全体：7.3% 男性：10.7% 女性：4.5%

・収入のある仕事

性別	人数(人)	割合(%)						
		週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
全体	2,762	0.5	0.9	1.1	4.8	21.8	36.8	34.1
男性	1,229	0.7	1.5	1.4	7.2	28.5	35.2	25.6
女性	1,533	0.3	0.4	0.9	2.9	16.4	38.2	40.9

週1回以上の参加割合 ⇒ 全体：17.0% 男性：23.8% 女性：11.6%

月1回以上の参加割合 ⇒ 全体：18.5% 男性：25.7% 女性：12.7%

3 市民意識

(1) 地域包括支援センター

今回の調査では、「はい」と回答した方の割合が、66.1%となっています。

前回の調査と比較すると、知名度がわずかにあがっており、要介護認定を受けていない高齢者の地域包括支援センターの認知度が向上したと考えられます。

要介護認定なし	人数(人)	割合(%)		
		知っている	知らない	無回答
今回調査	2,548	65.2	30.8	4.0
前回調査	2,101	61.0	33.7	5.3

※今回調査と前回調査では、要支援者の割合が大きく異なっているため、要介護認定なしの方のみの結果で比較しています。

(2) 在宅生活

在宅医療

在宅医療を「よく知っている」と回答した方の割合が、17.0%となっています。年齢別にみると、高齢になるにつれ「よく知っている」と回答した方の割合は減少しています。

年 齢	人数(人)	割合(%)			
		よく知っている	言葉は聞いたことはあるが、詳しくは知らない	聞いたことがない	無回答
全体	2,762	17.0	74.8	2.9	5.3
65-69 歳	681	21.0	73.1	2.6	3.2
70-74 歳	748	18.6	75.9	2.1	3.3
75-79 歳	634	17.7	75.4	2.5	4.4
80 歳以上	699	10.7	74.7	4.3	10.3

最期を迎える場所

「自宅」と回答した方の割合が、41.1%となっています。

年 齢	人数(人)	割合(%)					
		病院	自宅	老人ホーム等の施設	その他	分からない	無回答
全体	2,762	20.7	41.1	4.6	0.7	23.9	9.1
65-69 歳	681	19.2	39.6	5.9	0.9	27.0	7.3
70-74 歳	748	19.9	40.8	4.7	0.7	27.0	7.0
75-79 歳	634	22.2	41.6	3.9	0.6	21.8	9.8
80 歳以上	699	21.6	42.2	3.9	0.4	19.6	12.3

最期を迎える場所として、高齢になるにつれ「自宅」を希望する割合が高まるということは、多くの方が自宅での最期を望んでいることのあらわれとも考えられます。しかしその一方、在宅生活の継続のために重要な在宅医療の認知度が高いとはいえません。

旭川市の在宅医療資源（施設数）を人口比で見ると、在宅療養支援病院は全国平均よりも整備されていますが、在宅療養支援診療所は全国平均よりも少ないのが現状です。

・在宅医療資源(施設数)

人口 10 万人あたり 施設数	旭川市	全国
在宅療養支援病院	1.47	1.17
在宅療養支援診療所	7.66	11.67

※出典は地域医療情報システム(日本医師会)。2018 年の医療機関情報をもとに算出している。

また、自宅や介護施設で死亡する割合は、旭川市は全国と比較すると低水準であり、終末期の支援体制にはまだ課題があるものと考えられます。

・自宅死の割合

%	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
旭川市	8.5	10.9	10.8	9.9	10.9
全国	12.8	12.7	13.0	13.2	13.7
札幌市	10.8	10.4	11.1	11.0	10.8
函館市	9.4	8.0	8.2	9.2	9.3

・老人ホーム死の割合

%	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年
旭川市	4.0	3.9	4.8	4.6	4.5
全国	5.8	6.3	6.9	7.5	8.0
札幌市	2.1	2.2	2.8	3.2	3.6
函館市	4.5	5.2	5.2	5.9	6.4

※出典は人口動態調査

(3) 認知症

知識

認知症を「よく知っている」と回答した方の割合が、14.1%となっています。
年齢別にみると、高齢になるにつれ「よく知っている」と回答した割合が低くなっています。

年齢	人数 (人)	割合(%)				
		よく知っ ている	ある程度 知っている	あまり 知らない	全く 知らない	無回答
全体	2,762	14.1	61.3	16.8	2.2	5.6
65-69 歳	681	16.6	60.2	17.8	2.1	3.4
70-74 歳	748	13.9	65.0	14.7	2.0	4.4
75-79 歳	634	13.4	61.7	17.0	1.4	6.5
80 歳以上	699	12.6	57.9	17.9	3.4	8.2

旭川市は、これまで認知症サポーター養成に取り組んできており、人口当たりのサポーター数は、全国・道と同程度の水準にあり、市民の認知症に対する知識は一定の水準になってきていると考えられます。

・認知症サポーターの状況

	認知症サポーター数 (キャラバンメイト含)	人口比 (%)
旭川市	32,419	9.6
全国	11,980,577	9.4
北海道	478,056	9.0
札幌市	126,575	6.5
函館市	15,335	5.9

※出典はNPO地域ケア政策ネットワーク「自治体・地域での認知症サポーターキャラバン実施状況」(2020年6月末)

意識

市民の認識としても、認知症になっても地域暮らししていけるという認識が、要介護認定のない高齢者の30%を占めるまでになっています。

	人数(人)	割合(%)
認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活できる	241	8.7
認知症になっても、医療・介護等のサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける	828	30.0
認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用する必要がある	1,007	36.5
認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしていた地域で生活することが難しくなる	254	9.2
認知症になると、症状が進行していき、何もできなくなってしまう	507	18.4
無回答	433	15.7
全体	2,762	